【授業科目】基礎セミナーⅡ（応用）　Basic Seminar Ⅱ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
千原 猛、杉浦 諭、山口 央輝 榎本 喜彦、大島 茂	1年次 後　期	必 修	1	30	演習		巻末掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／基礎セミナーⅠの学修を踏まえて、保健看護医療福祉の分野から、個人またはグループで関心のあるテーマを選び、関連した文献を読み、グループディスカッション・ディベート等を通し、意見発表、意見交換を行い、テーマについての考察を深める。そしてまずレポートを作成する。そのレポートに基づき発表方法の検討、レジュメの作成を行いプレゼンテーションを実施する。レポート作成、プレゼンテーションを通して、テーマ設定、レポート構成、資料や文献の活用法、レジュメ作成法、発表方法などを教授する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出されたレポートにはコメントする事でフィードバックを行う。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け臨床検査を主体的に学び、臨床検査の専門職としてのキャリアを伸ばせる能力を持つことができる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①保健看護医療福祉の分野から自分やグループの関心のあるテーマについて、文献等の的確な資料収集ができる。 ②収集した資料を論理的にまとめ、レポートを作成することができる。 ③グループでテーマを選び、ディスカッション、ディベートなどの方法を通して意見発表、意見交換を行い、テーマの考察の広がり・深まりを学ぶとともに、グループ内での役割を理解することができる。 ④この学修を通して学んだ方法について他の科目の学修に活用することができる。
時間外学習に 必要な学修内容 および 学習上の助言	第 1 回～第 15 回 事前学習：基礎セミナーⅠで学んだことを復習しておく。特に参考資料の見つけ方、レポートの書き方は必ず事前学習をしておく（60分）。 課題に関する文献検索、発表のための資料・要約の作成は個人で行っておくこと。文献検索はインターネット上の資料に偏らないこと。専門雑誌や図書を活用する。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　オリエンテーション 本演習の進め方等 第 2 回　図書館司書による文献検索方法の指導 第 3 回　健康・医療・看護・福祉等に関するテーマを見つける 第 4 回　レポート課題に関する文献検討、ディスカッション等を行い、考察を深める 第 5 回　レポート作成① 第 6 回　レポート作成② 第 7 回　レポート作成③ 第 8 回　発表課題に関する文献検討、ディスカッション等を行い、考察を深める 第 9 回　発表方法の検討、発表の資料づくり① 第 10 回　発表方法の検討、発表の資料づくり② 第 11 回　発表方法の検討、発表の資料づくり③ 第 12 回　発表方法の検討、発表の資料づくり④ 第 13 回　プレゼンテーション、意見交換① 第 14 回　プレゼンテーション、意見交換② 第 15 回　プレゼンテーション、意見交換③ 千原 杉浦 山口 榎本 大島
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 レポート 40%、プレゼンテーション 40%、グループワーク 20%
教科書	特に指定しない　／　参考書等：基礎セミナーⅠの指定教科書 講義の中で適宜紹介する。
学生への メッセージ	現代社会における健康・保健・医療・看護・福祉等の課題に目を向け、グループワークディスカッションや文献検討等を通して広く考えて欲しい。また、レポートの書き方（テーマの設定、レポートの構成、資料や文献の活用法など）をしっかりと習得されたい。その学びの中から論理的また実証的に考える態度を身につけることを期待したい。